

< 家庭数 >
PTA会員の皆様

平成29年12月18日

世田谷区立千歳小学校
校長 渡邊 克元
PTA会長 小川 真穂
家庭教育学級委員長 志村 陽子

平成29年度 第2回家庭教育学級 開催報告書

初冬の候、PTA会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
11月24日に、『第2回 家庭教育学級』を開催いたしました。
講師に、稲垣佳美氏をお招きし、～子どもの本音に耳をすまそう、たくさん語ろう～「子どもの個性の伸ばし方」というテーマのもと、講座を行いました。
今、子どもの個性を伸ばそうという言葉をよく耳にしますが、そもそも個性とは何なのでしょう？
稲垣先生には『子供の個性を伸ばし生かすこと、親として子どもにどう教え提案してゆくか』を、子供の心理を踏まえてお話していただき、大変充実した内容になりました。
以下、講座内容を報告申し上げますのでご参加いただけなかった方々もぜひお役立ただければ幸いです。

「子どもの個性の伸ばし方」

講師 稲垣 佳美 (いながき よしみ) さん
株式会社 443 (よんよんさん) 代表取締役
心理療法師、経営コンサルタント
2001年より独立し現在までクライアント数、約1万5千人。
心理療法師の経験をもとにビジネスセミナー講師や、自分らしく生き、自分を活かすための講演会を全国で実施している。
現在、会員400名が在籍する「大人の女子校」の講師も歴任。
年収1千万円以上の女性経営者を多数輩出。
その歯に衣着せぬ表現力で全国の女性から支持を集め、ビジネスばかりでなく、コミュニケーション、パートナーシップなど様々な分野において、劇的な変化を遂げるクライアントが続出している。
近年、教育関連にも活躍の場を広げ、中学・高校での講演実績もある。



★講演内容★

子どもの個性を考えるとときに注目されるのは「育て方」であるが、注目されないものに「育ち方」がある。例えば兄と弟でケーキを食べるときに、親は平等だと思い半分にするが、兄は自分は大きいのに半分ずつは不平等だという感じ方をしたとします。感じ方(受け取り方)は育ち方です。個性によって感じ方が変わってくるので、いくら親が自分の子どもたちを同じように育てたと考えていても育ってきた感じが変わります。それが両親の考え方と違っていると「うちの子大丈夫かしら？」という思いになります。

子どもが自分らしく伸び伸びとしていられるのは環境(学校・家庭)によって決まってきます。子どもをどう教育すればいいのか?という質問が多いけれども、その手前からやっとならなければならない。人は環境に合わせて自分自身を変えてゆこうとするので(例・受験の多い小学校なら自分も受験しようと思う)、両親の精神状態や健康状態、家庭内や学校が安心できる場所でなければいつも危機感を持ってしまい自分らしさが出てこなくなります。そして昔に比べると親と子の関係が近く、情報過多で振り回されています。しかし、情報はいつも一般論です。一般論とは全体の6割がそのような傾向にあるということで細分化されてなく、ざっくりとしています。個性は一般論とは外れてゆき、普通がない世界です。まず情報を見ず、子どもを見てください(得意不得意、性格、好きなこと、人が好きかどうか、運動ができるかなど)。

今は自分だけが出来ること、得意なことを仕事にしてゆく女性が増えています。個性を伸ばすときに、わが子の強みや得意不得意、向き不向きもあるので他の子と比べるとではなく、普通じゃないと思えることがわが子の個性なのか?という視点をもつことが大切です。

私自身、自分を知らなかったため、8回の転職をし、その後、今の仕事を開業し続けています。個性は活かし方です。向いていることをやればうまくいき、向いていないことをやれば人並みか人並み以下になります。人はデコボコしており、全てを平均化しようとするのは(普通でいることは)難しい。例えば数学は人並み、国語ができる子は感覚が長けているという認識を持つということです。しかしできな

いところに目を向けていると、自分らしく振る舞うことができなくなります。自分らしくあるためには自由さ（遊びの部分）が必要です。

親が不機嫌で悲しんでいる顔をしていると、子は親の顔色を伺うようになり、自分らしくはならない。自分は要らないかもというような罪悪感を持つようになるので、笑っているといい。親が自分らしく楽しく生きるのは親の責務だと思います。四六時中子どもを考えていると全体が見えなくなってくるので、大したことでなくても物事が深刻になりやすい。

環境は大切です。学校を選ぶときは校風とその子が合っているかを考えてください。小学校頃は人生にそれほど影響はない。そして子どもの個性を楽しめるといいです。伝えることは手遅れにならないように伝えましょう。相談事は積極的に相談してもいいと思いますが、一般論に当てはめると間違えることが多い。もし自分にできることがあり、子どもにできないことがあったら違う人間だと思ってください。私だけができると思うと気が楽になります。できないことは人に助けを求めるとも大切です。子どもができることは任せ、できないことは脳にソフトがインストールされていないと思ひましょう。

★是非実践してほしい効果的なこと★

- ・お母さんが自分らしく笑顔でいるように、お母さん自身が生活を楽しんでいる状況を作ろう。
- ・出来ることなら子どもが20歳くらいのお母さん3人以上の相談相手をつくろう。（3人に相談すると総合的に考えることができる）
- ・ネットなどで子育ての情報は見ないようにしよう。
- ・感情を入れず、子どもを観察し、子どもの観察日記をつけよう。
- ・職業が多様化しているため10年後の仕事の予測はしないようにしよう。
- ・これからはグローバル化が進むので味覚を磨いておこう。（いろんなものを食べる体験をさせよう。海外に住めない理由の一つに食事が食べられない場合が多い。）
- ・いろんなことをやらせてみるのもよいが、できないことを長引かせないようにしよう。
- ・深刻化するのを、考えすぎないようにしよう。罪悪感を抱えないように。（不登校の責任は親半分子半分）
- ・時々、子どもに「私がお母さんで良かったね」と言おう。（子に恩を着せる）（言わないとわからない）
- ・旦那と相談しお互いに「お母さんの子で良かったね」「お父さんの子で良かったね」と言おう。（自分でいうより効果的）
- ・時々、子どもに「愛してる♡」と恥ずかしがらずに言おう。（言わないとわからない）
- ・子どもの良いところはほめるのではなく事実を細かく伝えよう。
- ・子どもができることはどんどんやらせよう。（親は楽、子どもは個性が伸びる）

★質疑応答★

Q. 子どもの個性を伸ばすことと勉強の両立が難しい。よい勉強法はありますか？

A. 自分に合う勉強法はある。目から（読んで）、聞いて、体を使って（書いて）の3パターンがあるので観察してみることで、勉強をどう捉えているか（今の勉強どうなの？好きか嫌いか？）を聞いてみることで、それによって答えが違ってくる。成績を気にする小学生はあまりいない。ルールを決めてやるのがいい子もいれば、反抗でやらない子もいるし、急に勉強に目覚める子もいる。今の時代勉強より、コミュニケーション能力を伸ばしてあげたいとも思う。

Q. 片付けのやり方がわからない子に効果的なことは？

A. どこに片付けてよいかわからないので、一つ一つ紙に書き、貼るとよい（夜寝る前はゴミを台所に持ってくるなど）。気にならないからやらないので、ルールを決めてしまうこと。又は習慣になるまで声掛けをする。立体的に把握できない人もいる（あの棚にこれが入るといことがわからないなど）。

Q. ゲームクリエイターになりたい子をどれだけゲームをやらせるとよいのか？

A. 小さい子には親の威厳で決めてよい。親は流されず線を引くところは引く。逆に親の考え方によっては自由にやらせるのもひとつの方法。親と子の個性のバランスで。

Q. 個性を伸ばす言葉かけ、ほめ方を教えて。

A. ほめないで事実をいうこと。ほめようとは思わずに細かくいう。（声が大きくてこういう場合はいいね）

- Q. まず宿題を済ませて心おきなく遊んで欲しいのですが、楽しいことやりたいことを優先して疲れてだらだらとします。よい声掛けはありますか？本人に任せるのは低学年には難しいのでしょうか？
- A. その子にもよる。結果的に問題がないなら、プロセスを見ない方法もある。やはり観察で、活発な子ならば先に遊びたいのかも。叱らず、私は困ってるけどあなたはどう思う？と相談してみて、本人に考えさせ、考えてない場合、どれがいいか提案したり決めてあげてもよい。
- Q. 子どもの個性を伸ばそうとするとときに障害になることは？
- A. 危険。安心でないことや健康でないこと。家庭の安全が一番。子どもに逃げ場があるのはいい。

★次回の家庭教育学級★

来年2月16日(金)に木下亜紀さんをお迎えし『こどものことばと発達について』～言語発達にかかわる言語聴覚士の観点から～をテーマにご講演いただきます。(10時～BOP室)

★参加者の感想(「講演会で参考になったことは？」アンケートより抜粋)★

- 子どもを“自分とくらべて出来ない”“ふつうじゃない”と一般論にあてはめて「どうしてだろう？」と悩まない。情報にふりまわされず、よく子どもを観察することが大事。(1年生 男子/5年生 女子)
- 人間はできること、できないこと、向き不向きがあるもの。できないことはできる人がやってあげればいいという考え方を家庭でも実践していきたいと思いました。自分の子どもには何でも人並みにできてほしいとつい思ってしまいますが、できること、好きなことをもっと認めてあげたいと思いました。(1年生 女子)
- 子どもと自分(母親)は違う人間だという事を意識し、押し付けない(1年生 男子)
- 「食事がダメでダメな人多い。体験の幅を広げてあげる。」という言葉が、ああその通りだなと思った。(1年生 女子/3年生 男子)
- 子どもとの関係をもっとフラットに、一人の人間として見ていこうと改めて思いました。(1年生 女子)
- 子どもの観察を楽しんでしようと思いました。(1年生 女子)
- 同世代の先生のお話、とてもわかりやすく、個性の伸ばし方を難しく考えなくていいんだな、と気が楽になりました。(1年生 男子)
- 自分自身もっと気楽に、子育てを楽しみたいと思いました。(1年生 男子)
- できないところ、悪く見えるところも、個性としてみることで、よく観察すること、大切なことだと思いました。(1年生 女子)
- 大人になることへ憧れがもてる様、家庭でも自分が輝いていたいと思いました。(1年生 男子)
- 親子の距離感が近すぎるの話は思いあたる事がありすぎて気をつけようと思いました。(1年生 女子)
- 情報にふりまわされないようにしたいと思いました。(1年生 男子/ 5年生男子)
- 自分を優先で子供を2番目と考えると気持ちが少し楽に子育てが出来そうな気がしました。ある程度、放っておくことが大切なんだと知って良かったです。(1年生 女子)
- 私と子供のキョリが近すぎるかと思った。あまり口うるさくしないようにして、子供の個性をかんさつしていきたい。(1年生 女子)
- 情報にとらわれすぎない。情報よりその子を観察することを心がけたいです。(2年生 男子)
- 子供との距離が近すぎるところが自分もあるのももう少し観察していこうと。観察日記も書いてみようかと思いました。(2年生 女子)
- 出来ないこと＝脳にソフトがインストールされていない、の話がめっちゃ気に入りました。でも子供のことは思うので、かんたんにあきらめられない。(2年生 女子)
- 子どもに相談する(お母さん困っているけどどうしたらいい?)というのをやってみようと思いません!(2年生 男子)
- ・自分に置きかえて、勉強は好きだったか、など子どもにばかり押しつけない。
・別の人間だと思う。(2年生 女子)
- 親が嬉しく喜んでのびのびと生活する姿を見せることが大切だと思いました。(2年生 女子)
- 子どもをよく見ようと思いました。夫も。言葉にして伝えていこうと思います。(2年生 女子)
- 子どもを自由にさせる(精神的)環境づくり。家は安心、安全な場所にすること。(2年生 女子)
- 子供の出来ない事に目を向けすぎてヒステリックになっている母なので、これからは、自分を大切に考えてみようと思います。そして、個性を伸ばしてあげられる様に観察してみようと思います。(2年生 男子)

- 子供を観察する。得意な事を見つけて子供に任せる。これをやってみようと思います。(2年生 男子)
- 情報を見るより子供を見る。言葉できちんと伝えないとわからない。経験している3人以上の友達に相談する。(2年生 女子)
- 子供の客観的な観察日記をつけて、個性を見極めようと思った。(2年生 男子/4年生 女子)
- “見張らない”というお話に、我が子の家庭での安心できる場所はあるのか?!とハッとさせられました。今日から“観察”に切り替え、子供の個性を見つめていくことを楽しみます。(2年生/4年生 女子)
- いつもガミガミしているのをやめようと思いました。自分はいない方が良いなんて思ってほしくないのです。気が楽になりました。(2年生 女子)
- 子供との距離をとること。(3年生、5年生)
- 子どもにプロモーションする。やることを紙に書く。ほめるよりも事実を言う。など早速やってみようと思います。何よりも、笑いとばすことを心がけたいです!!(3年生 男子)
- 子供相談すること。事実をいうこと=ほめるを实せんしたい。最近、子供とのやりとりで少し無理しないようにと心がけている。とても自信を持ってました。(3年生 男子)
- 個性≠一般論。出来ないことを長びかせない。お母さんが笑顔でないと、子供の頭の中で自分をせめる。(3年生 男子)
- 子育てに対する気持ちがとても楽になりました。私も子供を観察してみたいと思います。ありがとうございました。(3年生 男子/6年生 女子)
- 今まで子供に対して「どうしてふつうにできないの?」と思っていたことが、それが個性なんだと思えそうです。家の中で笑顔が増えそうです。(3年生 女子)
- 親も他人がこうするからではなく私はどうしたいか。考えて、よく観察して、(自分はこう思うと)おこらないようにしたいと思います。(3年生 男子)
- 情報に流されすぎない。できないこと=ダメではなく、できることを伸ばす声かけをする。(3年生 女子/5年生 男子)
- 親のおこったり悲しい顔を見てうれしい子はいない→親の顔を見て育つようになる→親の責務は明るくニコニコしてること。(3年生 女子/6年生 女子)
- 情報過多、情報病ということは私自身そうだと思います。子供を見る、観察することからはじめようと思います。3年生で手遅れではないか、と思うこともあるのですが、その分時間をかけて、私がかわろうと思います。(3年生 女子)
- 全て。一般論ではなく、自分の個性で育てていきたいと思いました。(4年生 女子)
- ダメなとこさがし…しているつもりはないけど、笑いとばせてもないな～。つい目についてしまうな～と感じました。自由さ…確かに少ないかもと思ったので。私自身が笑顔ですごしていきたくと思いました!! 相談する時は子育てを終えた方に3人以上…なるほどと思いました。情報は見ない=自分の子を観察する…役立てていきたいです。(4年生 男子)
- 子供をよく観察して、向き不向きをたくさんチェックしてみようと思いました。個性を伸ばすにはそのまます受け入れ尊重することだと感じました。(4年生 男子)
- ・過剰にほめるのはやめようと思いました。・子供に関心をむけすぎないように
・自分自身を楽しむことに専念しようと思います。・いくら言っても直らないことは不得意なんだと思ひ、気にしないことにしようと思いました。(4年生 男子)
- 子供を見張らない、ある程度の自由を与える。失敗しても笑い飛ばせる余裕を持ちたい。自分(親)より良くできる事はほめて気持ち良くやってもらおう。(4年生 男子)
- 子供との距離感を大事にし、情報に惑わされないようにしたいです。(5年生 女子)
- 育ち方=感じ方、考え方、受け取り方=個性。とても大切な事だと感じました。自分を大切にしながら、子供のそういった部分を見つけて楽しみながら! 気楽に子育てしたいと思いました。それと、ダメな所探しをしない事は意識したいと思いました。(5年生 男子)
- 全体的にすべて、すぐ実行したいです。子供を観察します。(5年生 女子)
- ・情報に踊らされない・一般論に当てはめない・距離感を保つ・体験の幅を広げる・深刻にとらえずきない・出来ない事を長びかせない。(6年生 女子)
- 先生の体験をまじえながら、分かりやすく、様々な気の持ちようを伺えました。一般論にあてはめず、自分の子どもをよく見て、合う合わないを近すぎない距離を保ってかんさつする。自分にも子どもにも自由な時間をもっておおらかに接する。などたくさんの勇気の出る話がきけてよかったです。(6年生 女子)
- 一般論に左右されずに子供をみる。深刻化しないようにする。(6年生 男子)

平成29年度 第2回家庭教育学級

「子どもの個性の伸ばし方」

～子どものホンネに耳をすまそう、たくさん語ろう～

実施報告書

平成29年 千歳小学校 PTA
家庭教育学級委員会第2グループ

開催日時：平成29年11月24日(金)

会場：千歳小学校 BOP 室

テーマ：「子どもの個性の伸ばし方」

～子どものホンネに耳をすまそうたくさん語ろう～

講師：稲垣 佳美 株式会社443(よんよんさん)代表取締役

来賓：社会教育指導員 平田先生

参加者：PTA 会員 59名(子ども9名同伴者4名)[千歳小学校副校長、PTA 役員、家庭教育学級委員

講師紹介

講師 稲垣 佳美先生

2001年より独立し、現在までクライアント数、約1万5千人。

心理療法の経験をもとにビジネスセミナー講師や、自分らしく生き、自分を活かすための講演会を全国で実施されています。

現在、会員400名が在籍する「大人の女子高」の講師も歴任。

年収1千万円以上の女性経営者を多数輩出。

メディア実績

女性誌「InRed(インレッド)」に自分らしさコンサルタントとして掲載

GMO インサイト株式会社サイト「michill(ミチル)」にて、女性起業家コラム執筆中。

ブログは人気ランキング2部門で1位獲得されています。

1. 講座内容

稲垣先生の体験談をはじめ、先生のもとへご相談にいらっしゃる方のお話を交えて講演いただきました。「個性とは」、「育て方と育ち方」など子どもの心理を踏まえて、大事な点をご教授いただきました。体験談がわかりやすく、親として自分自身が今日から活かせるお話を頂きました。

・そもそも個性とは何なのか

教育や子育てなどで、注目されるのが「育て方」であるが、子どもの個性を考えるときには「育ち方」が大きく関わってくる。子どもを同じよう育てていても、兄弟で個性が違う。例えば、親が均等に半分にしたケーキがあったとき、親は「平等に分けた」と思っている、お兄ちゃんが「自分のほうが年上で大きいのに、均等に半分ずつでは少ない」と感じてしまうことがある。個性とは個々によって受け取り方、感じ方が異なる事。それは育ち方によるところが大きい。子どもが自分らしさを発揮できる家庭環境、学校環境が大事。

- ・情報に頼らない、子どもを観察する

近年、親と子の距離が密接で、情報過多であり、心配事などがあるとすぐにネット検索してしまいがちの傾向にある。ネット情報に載っている一般論に我が子が当てはまるか、他者との比較ではなく、子どもをしっかり観察して、向き不向き、得手不得手を知る。自分の感情は入れずに観察日記をつけてみるのも良い。他者と比べてしまうと個性を伸ばせなくなる。

他者に相談する場合、自分の子どもよりも大きいお子さんを育てている先輩お母さんに相談する。三人以上に話を聞き総合的に判断する。

でこぼこしている子を平均化しようとするのは、できないことにばかり目を向けてしまうことになるので、「いつもできないところを見張っている…」という感覚を持つ子どもが多い。親のマイナスの表情を見たくないで顔色を伺うようになる。自由さが奪われ自分らしさを出せなくなる。

子どもはお母さんが笑っていると安心する。親の心理、健康状態が子どもに影響する。多少子どもが失敗しても深刻にならずに笑いとばすくらいがちょうど良い。親が深刻になってしまうと子どもも深刻に考えてしまいがち。

- ・体験させ、色々なものを食べさせ味覚を広げる

体験によって幅がひろがり、発見に繋がる。得意なことを見つけたら「私よりあなたの方が上手だから」と伝え、どんどん子どもに任せる。

できない事を長引かせないことも大事。

またこれからはグローバル化が進むので色々な物を食べる体験をさせる。海外に行き、自分には合っていないと感じる理由に食事が受け付けない場合が多い。

- ・子どもにプロモーションする

夫婦で協力しあって子どもに向けてお互いを褒める。例えば、「毎日ごはんがきちんと出てくる」→「子どもにとって当たり前」になっていてありがたみが無くなる。大変さを子どもに言葉で伝える。きちんと伝えないと子どもは分からない。母親自身が「こんなに大変だよ」と伝えるよりも、父親に「ご飯を作るって大変だよ。お母さんが毎日ごはんを作ってくれてありがたいね」と子どもに伝えてもらうのが効果的。

子どもに「愛してるよ」と言葉で伝えないと分からない。

子どもは子どもで思考があるので、些細な出来事をどんどん頭の中で悪い方向へ展開してしまう。一言伝えれば済む事もある。恥ずかしがらずに伝える。

2. 質疑応答

Q.子どもの個性を伸ばす事と勉強の両立が難しい。よい勉強法はありますか？

A.勉強のやり方は大きく3つある。①視覚タイプ②聞いて覚えるタイプ③体を使って覚えるタイプに分かれる。子どもを観察し、勉強をどう捉えているか聞いてみる。単に遊びたい、分からないからやりたくない、「勉強しなさい」と言われるのがいやで反抗しているなど、子どもによってそれぞれやりたくない理由が異なる。ルールを決めて出来る子もいれば、付きっきりで一緒にやれば出来る子もいる。子どもを観察し、勉強に対する捉え方を踏まえ子どもと相談しながらその子に合った方法を探す。

Q.片付け方が分からない。

A.片付けが出来ないのは、そこに物があっても気にならないから。ルールを決めて紙に書いて貼る。例えば、「夜9時になったら部屋で飲んだ飲み物を台所に持っていく」と、ルールを決めて紙に書いて貼っておく。
しまいたい物があり、棚にスペースがあっても、それが納まるか目で見て予測出来ない子もいるので、しまう場所を決め、棚にシールを貼って子どもが認知しやすくする。

Q.ゲームクリエイターになりたい子どもにどれだけゲームをやらせてもよいか？

A.小さい子は親の威厳でルールを決めて良い。親は流されず線を引くところは引くこと。逆に親の考え方によっては自由にやらせるのもひとつの方法。親と子の個性のバランスで。

3. 事前アンケートへの返答

Q.個性を伸ばす言葉掛け、褒め方は。

A.褒めるではなく、事実を細かく伝える。

〇〇が上手だね。〇〇が得意だね。と事実を伝える。

例えば、「発表する時、声が大きくていいよね。」と声を大きくして良い場面も伝える。(公共の場ではダメなので)

Q.まず宿題を済ませて心置きなく遊んで欲しいので、声かけをするが、楽しいこと、やりたいことを優先し、疲れてダラダラしてしまう。本人に任せるのは低学年には難しいでしょうか。

A.ダラダラしても、その日のうちに終わっているのであれば問題ないと思う。声かけと言うよりも観察してみる。活発な子だと、座っているより早く体を動かしたい傾向にある。宿題をしてから遊んだ方がよいと思うけど、あなたは どう思う？と考えさせる。お母さん困っているけどどうしたら良い？と子どもに相談してみる。

注意する、叱るばかりでは子ども自身が考える余地が無くなる。相談し子どもに考えさせる。

Q.子どもの個性を伸ばそうとする時に、障害になるものは何でしょうか。

A.危険。家庭が安全で安心できる場所でないこと。

子どもにとって家庭が安心出来る場所であることが大切。

4. 所感

講演のテーマ「子どもの個性の伸ばし方」に関心のある保護者が多く、事前の申し込みで69名もの参加申し込みがありました。講演後、多くの方にアンケートにて感想を書いて頂いたのが担当メンバーの励みになりました。「子どもを監視するのではなく、一歩引いて観察してみる」「不機嫌な顔ばかりしていると親の顔色を伺うようになるが、失敗も笑い飛ばしてあげると子どもは安心感を持って個性を伸ばしていける」など、是非実践してみたいと思う家庭教育のヒントを教えて頂いたと思います。

2班のメンバーでも、子ども達が喧嘩をしたら親は笑う事にしたところ、子ども達も笑い出し、喧嘩が収まったと、早速実践しているご家庭がありました。

情報に振り回されず、その子なりの個性をよく見てあげるという内容に、肩の力を抜いても大丈夫なんだと、主催側2班のメンバーも元気を頂けた講演でした。

5. 補足

参加者によるアンケート集計結果については添付資料を参照のこと。

2017年11月24日(金) 家庭教育学級委員会

テーマ：《子どもの本音に耳をすまそう、たくさん語ろう 【子どもの個性の伸ばし方】》

講師：稲垣 佳美さん

■当日参加者実績

○出席人数 大人 59名/ 子ども 9名 / 同伴者 3名

※内、当日飛び込み参加者 4名

※申し込み数に対する出席率 74% (飛び込み参加者を含まない)

○学年別出席人数

1年生 16名/ 2年生 14名/ 3年生 10名/ 4年生 8名

5年生 5名/ 6年生 3名

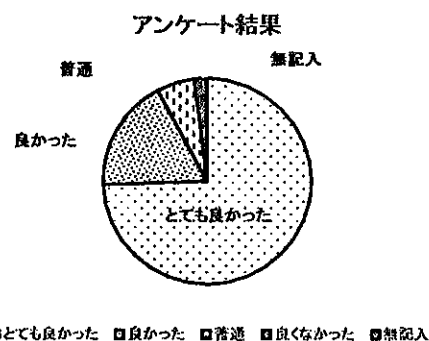
■アンケート提出枚数 51枚

※アンケート提出率 86%

■アンケート集計結果

1. 講演会の内容はいかがでしたか。

とても良かった	38名
良かった	9名
普通	3名
良くなかった	0名
記入無し	1名



2. 講演を聴かれて、今後の生活に役立ちそうなことがありましたら、お書きください。

※()は子どもの学年、性別

○子どもを“自分とくらべて出来ない”“ふつうじゃない”と一般論にあてはめて「どうしてだろう?」と悩まない。情報にふりまわされず、よく子どもを観察することが大事。(1年生 男子/5年生 女子)

○人間はできること、できないこと、向き不向きがあるもの。できないことはできる人がやってあげれば良いという考え方を家庭でも実践していきたいと思いました。自分の子どもには何でも人並みにできてほしいとつい思ってしまうのですが、できること、好きなことをもっと認めてあげたいと思いました。(1年生 女子)

○子どもと自分(母親)は違う人間だという事を意識し、押し付けない(1年生 男子)

○「食事がダメでダメな人多い。体験の幅を広げてあげる。」という言葉が、ああその通りだなと思った。(1年生 女子/ 3年生男子)

- 子どもとの関係をもっとフラットに、一人の人間として見ていこうと改めて思いました。(1年生 女子)
- 子どもの観察を楽しんでしようと思いました。(1年生 女子)
- 同世代の先生のお話、とてもわかりやすく、個性の伸ばし方を難しく考えなくていいんだな、と気が楽になりました。(1年生 男子)
- 自分自身もっと気楽に、子育てを楽しみたいと思いました。(1年生 男子)
- できないところ、悪く見えるところも、個性としてみることに、よく観察すること、大切なことだと思いました。(1年生 女子)
- 大人になることへ憧れがもてる様、家庭でも自分が輝いていたいと思いました。(1年生 男子)
- 親子の距離感が近すぎるの話は思いあたる事がありすぎて気をつけようと思いました。(1年生 女子)
- 情報にふりまわされないようにしたいと思いました。(1年生 男子/ 5年生男子)
- 自分を優先で子供を2番目と考えると気持ち少し楽に子育て出来そうな気がしました。ある程度、放っておくことが大切なんだと知って良かったです。(1年生 女子)
- 私と子供のキョリが近すぎるかと思った。あまり口うるさくしないようにして、子供の個性をかんさつしていきたい。(1年生 女子)
- 今まで自分の時間をぎせいにしてきたナ〜、とわかったので、これからは大切にしたいと思います。あと、なるべく笑おうと思います。(2年生、6年生)
- 情報にとらわれすぎない。情報よりその子を観察することを心がけたいです。(2年生 男子)
- 子供との距離が近すぎるどころが自分もあるのもう少し観察していこうと。観察日記も書いてみようかと思いました。(2年生 女子)
- 出来ないこと＝脳にソフトがインストールされていない、の話がめっちゃ気に入りました。でも子供のことは思うので、かんたんにあきらめられない。(2年生 女子)
- 子どもに相談する(お母さん困っているけどどうしたらいい?)というのをやってみようと思います!(2年生 男子)
- ・自分に置きかえて、勉強は好きだったか、など子どもにばかり押しつけない
 - ・別の人間だと思う (2年生 女子)
- 親が嬉しく喜んでのびのびと生活する姿を見せることが大切だと思いました。(2年生 女子)
- 子どもをよく見ようと思いました。夫も。言葉にして伝えていこうと思います。(2年生 女子)
- 子どもを自由にさせる(精神的)環境づくり。家は安心、安全な場所にする。(2年生女子)
- 子供の出来ない事に目を向けすぎてヒステリックになっている母なので、これからは、自分を大切に考えてみようと思います。そして、個性を伸ばしてあげられる様に観察してみようと思います。(2年生 男子)
- 子供を観察する。得意な事を見つけて子供に任せる。これをやってみようと思います。(2年生 男子)
- 情報を見るより子供を見る。言葉できちんと伝えないとわからない。経験している3人以上の友達に相談する。(2年生 女子)
- 子供の客観的な観察日記をつけて、個性を見極めようと思った。(2年生 男子/ 4年生 女子)
- “見張らない”というお話に、我が子の家庭での安心できる場所はあるのか?!とハッとさせられました。今日から“観察”に切り替え、子供の個性を見つめていくことを楽しみます。(2年生/4年生 女子)
- いつもガミガミしているのをやめようと思いました。自分はいない方が良くなんて思っほしくない。気が楽になりました。(2年生 女子)

○子供との距離をとること。(3年生、5年生)

○子どもにプロモーションする。やることを紙に書く。ほめるよりも事実を言う。など早速やってみようと思います。何よりも、笑いとばすことを心がけたいです!! (3年生 男子)

○子供に相談すること。事実をいうこと=ほめるを实せんしたい。最近、子供とのやりとりで少し無理しないようにと心がけている。とても自信を持ってました。(3年生 男子)

○個性≠一般論。出来ないことを長びかせない。お母さんが笑顔でないと、子供の頭の中で自分をせめる。(3年生 男子)

○子育てに対する気持ちがとても楽になりました。私も子供を観察してみたいと思います。ありがとうございました。(3年生 男子/ 6年生 女子)

○今まで子供に対して「どうしてふつうにできないの?」と思っていたことが、それが個性なんだと思えそうです。家の中で笑顔が増えそうです。(3年生 女子)

○親も他人がこうするからではなく私はどうしたいか。考えて、よく観察して、(自分はこう思うと)おこらないようにしたいと思います。(3年生 男子)

○情報に流されすぎない。できないこと=ダメではなく、できることを伸ばす声かけをする。(3年生 女子/ 5年生 男子)

○親のおこったり悲しい顔を見てうれしい子はいない→親の顔をみて育つようになる→親の責務は明るくニコニコすること。(3年生 女子/ 6年生 女子)

○情報過多、情報病ということは私自身そうだと思います。子供を見る、観察することからはじめようと思います。3年生で手遅れではないか、と思うこともあるのですが、その分時間をかけて、私がかわろうと思います。(3年生 女子)

○全て。一般論ではなく、自分の個性で育てていきたいと思いました。(4年生 女子)

○ダメなとこさがし・・・しているつもりはないけど、笑いとばせてもないな～。つい目についてしまうな～と感じました。自由さ・・・確かに少ないかもと思ったので。私自身が笑顔で過ごしていきたいと思いました!! 相談する時は子育てを終えた方に3人以上・・・なるほどと思いました。情報は見ない=自分の子を観察する・・・役立てていきたいです。(4年生 男子)

○子供をよく観察して、向き不向きをたくさんチェックしてみようと思いました。個性を伸ばすにはそのままを受け入れ尊重することだと感じました。(4年生 男子)

○・過剰にほめるのはやめようと思いました。・子供に関心をむけすぎないように

・自分自身を楽しむことに専念しようと思います。・いくら言っても直らないことは不得

意なんだと思い、気にしないことにしようと思いました。(4年生 男子)

○子供を見張らない、ある程度の自由を与える。失敗しても笑い飛ばせる余裕を持ちたい。自分(親)より良くできる事はほめて気持ち良くやってもらう。(4年生 男子)

○子供との距離感を大事にし、情報に惑わされないようにしたいです。(5年生 女子)

○育ち方=感じ方、考え方、受け取り方=個性。とても大切な事だと感じました。自分を大切にしながら、子供のそういった部分を見つけて楽しみながら! 気楽に子育てしたいと思いました。それと、ダメな所探しをしない事は意識したいと思いました。(5年生 男子)

○全体的にすべて、すぐ実行したいです。子供を観察します。(5年生 女子)

○・情報に踊らされない・一般論に当てはめない・距離感を保つ・体験の幅を拡げる・深刻にとらえすぎない・出来ない事を長びかせない (6年生 女子)

○先生の体験をまじえながら、分かりやすく、様々な気の持ちようを伺えました。一般論にあてはめず、自分の子どもをよく見て、合う合わないを近すぎない距離を保ってかんさつする。自分にも子どもにも自由な時間をもっておおらかに接する。などたくさんの勇気の出る話がきけてよかったです。(6年生 女子)

○一般論に左右されずに子供をみる。深刻化しないようにする。(6年生 男子)

3. 今後、家庭教育委員会で取り上げてほしいテーマがありましたら、お書きください。

○食育 (1年生 女子)

○ゲームの活用法やつき合い方。(1年生 女子/ 3年生 男子)

○今回の様に、型にはならない子育てに関する講演会をききたいです! (1年生 男子)

○反抗期の対応 (1年生 女子)

○性別のお悩み改善も聞いてみたいです。男子ならではの・・・(1年生 男子)

○断捨離 (1年生/5年生 男子)

○近年“子育て”のまじめな講演会が続きますが、もっと親が楽しいもの(料理やカラーコーディネート ETC)がしたいです。(2年生 女子)

○LGBT (2年生 男子)

○怒について。怒ることで、子供の性格、人格形成に影響するか。(2年生 女子)

○性の目覚めについて (2年生 男子/ 4年生 女子)

○親と子の関係性、親を頑張りすぎないで良いというようなお話をもっと伺いたいです。(2年生/4年生 女子)

○皆で歌とかうたいたいです。(2年生 女子)

○のびのびと過ごしながら家の中をキレイにして暮らす方法。(3年生 男子)

○ゲームと子供教育との関係性。(3年生 男子)

○子どもの安全について危機回避できる子どもを育てる為にできること。(3年生 女子)

○今回と同じようなもの。(4年生 女子)

○ほめ方、しかり方。(4年生 男子)

○ワークショップ形式の講演。(5年生 女子)

○家庭での性教育のし方。(5年生 女子)

○また稲垣先生のお話を伺いたいです。親も子も気持ちがあほぐれるような内容はいいですね。(6年生 女子)